

J-クレジット制度管理者 御中

## 実績確認概要書

平成 29 年 10 月 24 日

審査機関名 ビューローベリタスジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの更新プロジェクト
プロジェクト番号	KC0069
排出削減事業者名	有限会社 星太染工
排出削減共同実施事業者名	株式会社F Tカーボン (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	有限会社 星太染工 (住所：群馬県桐生市東3丁目5番3号)
事業の概要	A 重油ボイラーは、経年劣化及びすすの付着等によってボイラー効率が悪化しているため、新しい都市ガスボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO <sub>2</sub> 排出量を削減する。さらに、都市ガスは A 重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を都市ガスに転換することにより CO <sub>2</sub> 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2008 年度 54tCO <sub>2</sub> /年 2009 年度 130tCO <sub>2</sub> /年 2010 年度 130tCO <sub>2</sub> /年 2011 年度 130tCO <sub>2</sub> /年 2012 年度 130tCO <sub>2</sub> /年 (国内クレジット制度 事業実施期間合計 574t-CO <sub>2</sub> ) 2013 年度 129t-CO <sub>2</sub> /年 2014 年度 137t-CO <sub>2</sub> /年 2015 年度 132t-CO <sub>2</sub> /年 2016 年度 77t-CO <sub>2</sub> /年 (J-クレジット制度 事業実施期間合計 475t-CO <sub>2</sub> )
クレジット 認証期間	開始日 2008 年 11 月 1 日 終了予定日 2016 年 10 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 「ボイラーの更新」

## 2. 本実績確認の対象期間

2015年9月1日～2016年10月31日（6回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	146t-CO2 (2015年9月1日～2016年10月31日)
-------	-------------------------------------

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていること	1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 6回目のため該当なし。  2) 対象期間中の設備稼働確認 都市ガスボイラーは実績確認の期間中、継続的に稼働していることを、事業者への質問、都市ガスの請求書、ボイラー定期点検表により確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	1) モニタリング方法の確認 関係者への質問、都市ガスの請求書の確認により、方法論及び承認排出削減計画に沿ってモニタリングが実施されていたことを確認した。  2) 活動量の正確性 関係者への質問、都市ガスの請求書の確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、正確に集計されていることを確認した。  3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 使用されている単位発熱量、排出係数等が、J クレジット制度モニタリング・算定規定(排出削減プロジェクト用) Ver.2.8

	及び承認排出削減計画に従っていることを確認した。
	4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。
算定期間が移行期間内であること	本実績確認の対象期間は、2015年9月1日から2016年10月31日までであり、排出削減量を算定した期間が2016年10月31日を超えないことを確認した。

#### 5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価（該当する場合）

今回の検証において承認排出削減事業計画からの重要な変更点に該当する事象はなかった。

#### 6. 特記事項

確認した排出削減量に相当する省エネルギー量について、原油換算 5.6(kL)であることを確認した。

以上